# 紫藤通信

## 第65回 卒業式
### ～平成28年3月3日～

風光る三月三日、第六十五回卒業式が厳かに挙行された。式辞の中の岡理事長の言葉にあったような「先が見通せる空」が広がる爽やかな良き日であった。卒業証書授与では、凛とした中に笑顔がにじんだような二四一名の返事が印象に残るものになった。

山田校長は、変化の激しい社会に出て行く卒業生へ向けて、「学び続けること、バランス感覚を持つこと、志を高く持つこと」を説き、彼らの新しいスタートを祝福した。ついで岡理事長からは、「幅広い知識を身に付けて欲しい」と激励の言葉があった。また、選挙権の改正を挙げられて、「知識を知恵に変えて、社会を変革してほしい」と説かれた。その後、後援会会長、むらさき会会長からそれぞれ温かいお祝いの言葉を頂いた。

卒業生を代表して「感謝の言葉」を述べた田中雄輝くんは、三年間の学校生活に思いを馳せながら、感謝の意を表した。総じて、卒業生の今後の飛躍を期待する式になった。本校を旅立つ卒業生の皆さまの今後の活躍をお祈り申し上げます。

### ◆各賞

**山村学園理事長賞**
三年六組　神田彩日香

**学校長賞**
三年七組　神野　未早

**後援会長賞**
三年三組　細貝　幸香

**国際文化賞**
三年五組　寒川　亘揮

**山村要二記念賞**
三年六組　石嶋　司

**山村ふみよ記念賞**
三年五組　上原　唯

**日本私立中学高等学校連合会会長賞**
三年六組　田中　雄輝
三年二組　押田　樹

**埼玉県私立中学高等学校協会会長賞**
三年七組　小幡　珠理

**埼玉県私立小学校中学高等学校保護者会連合会長賞**
三年一組　菰田　悠子

**産業教育振興中央会会長賞**
三年五組　高坂　志歩

**体育協会会長賞**
三年三組　細江　真治
三年六組　新城　真弥

**3ヵ年皆勤賞**
三年四組　榎本　清香

**山村学園創立者賞**
三年二組　布留川　修

発行所
山村国際高等学校
坂戸市千代田1-2-23
☎ 049-281-0221
http://www.yamamura kokusai.ed.jp
印刷所
有限会社 須賀印刷

## 卒業生の皆さんへ

校長　山田 良秋

本校を巣立ってゆく君たちに、明るい未来の実現を託したいと思います。そこで、「餞（はなむけ）」の言葉を贈ります。

先ず第一は「学び続ける心」を持続して欲しいということです。変化の激しい時代では、学ぶことにより確かな知識・判断力が身につきます。それは豊かな人生を送るための強力な武器となるでしょう。

二番目は、「責任感」を持ってほしいということです。マスコミなどでは、人を欺いて利益を求める者の姿や様子がよく報じられています。やがて社会の中心となってゆく皆さんは、自分の行動に責任を持ち、併せて公共性を自覚する人間になってもらいたいと考えます。

そして、最後の三番目です。「志」高く掲げ持ってもらいたいということです。いずれ皆さんは職業に就くでしょう。職業を持つということは、生業を持つという意味だけではなく、自己実現・社会貢献を伴うものです。

これから進学する人は、進学先では学生としての生活だけで満足せずに将来どのような職業に就くか、確固たる目標を持ち、常にその実現のための努力を惜しまないで下さい。

卒業おめでとう。君たちの将来に幸多かれと祈ります。

## 螳螂

これが私にとって最後の「螳螂」となるだろう。従って、少し雑談めくことを許して頂きたい。「螳螂」の第一回、即ち『紫藤通信』の第一号は一九八八年一月、八木直也が樋口一葉をテーマに書いた。第二号は、太宰治をテーマに私。二八年前のことになる。爾来、このコラムは文学をモチーフに〈抵抗〉のアイデンティティーを曲げることなく二人（四年前の八木退職後は中西聖一）によって書き継がれてきた▼〈抵抗〉とは何か。言うまでもなく、これは自己に対する抵抗を基本とする社会変革への意識とその姿である。自己に甘えた抵抗など在り得ない。その意味で、文学は自己への抵抗を核としてようやく成立するものである。大胆な表現を許して頂けるなら、文学とは〈抵抗〉の姿そのものである。「螳螂の斧をねぶりぬ生（あ）れてすぐ」（山口誓子）生まれたばかりのカマキリが自分の斧（抵抗の心）を舐（な）める姿には、悲しいまでの凄みを感じる。このコラム「螳螂」もまた、そのような姿で書き継がれてきたと思って頂けるなら幸いである。二八年の時は逝く…。

# 送別会

小雨が降り注ぐ中、二月二十日に送別会が行われました。三年生は久しぶりの登校ということでクラスメイトと楽しそうに会話している姿が見られ、穏やかな雰囲気に包まれていました。

三年生が入場し、会が始まりました。三年生への感謝を伝えたいと、よさこい部・ダンス部・バトントワーリング部・軽音楽部・放送部・生徒会の七団体と三学年の教員団が発表を行いました。

よさこい部は、体育館全体を使用した一体感のある演技を行っていました。ダンス部は、工夫を凝らした演出で会場を不思議な雰囲気に変えていました。バトントワーリング部は、三年生自ら感謝の気持ちを込め演技を行っていました。軽音楽部は、落ち着いた雰囲気の曲をしっとりと演奏していました。放送部は、工夫を凝らした三年間の記録を流していました。生徒会は、三行ラブレターを作成し、各部活動からのメッセージを三年生に伝えていました。三学年の教員団は、やまこくライオンキングというドラマを作成し、放映しました。普段では見られない先生たちの姿に生徒も喜んでいました。

**【送別会プログラム】**

一．三年生入場
二．諸注意
三．表彰
四．生徒会長挨拶
五．よさこい部
六．ダンス部
七．バトントワーリング部
八．休憩
九．軽音楽部
十．放送部
十一．生徒会
十二．三年生教員
十三．花束贈呈・前生徒会長挨拶
十四．三年生退場

# 卒業作品展 ファッションデザインコース

## 最後の卒業作品展

2月18日・19日両日本校にて恒例の卒業作品展が開かれた。ファッションデザインコースとしては最後となるものである。

会場作りは、たっぷり半日はかかる。A館の4階からB館の普通教室へと動線の一番長い距離を何往復もしながらの作業である。代表生徒を中心によく頑張っていた。

当日は校長先生を始め多くの先生方に見て頂いた。生徒それぞれの普段見られない違った一面に驚かれた先生もいた。また生徒達・女子も男子も多く足を運んでくれた。一つ一つの作品に感心し、中には三年生が説明を加えながら見学する光景も見られた。

来年のライフデザインコース服飾希望者が少ないと聞いて、一人でも多く入ってくれるよう後輩に一生懸命コースのアピールをする姿も見られた。

ファッションデザインコース最後の生徒達の作品展は、多くの皆さんのご協力のもと、二日間滞りなく、立派に幕を閉じる事ができた。

本当にありがとうございました。

# 英語総合コース

本校にとって最後の英語総合コースの生徒となった3年5組の15名の生徒たちは、3月3日を以って無事卒業を迎えます。彼らは日頃から、その課程の名に恥じないような英語力を身につけるべく、英語学習に力を込めていたと思います。副担任のキース・マッカーシー先生との日常会話でも英語を用いるよう努力し、2・3年時ともに英語スピーチコンテストでのクラス代表者は、本格的な内容の発表ができました。

彼らの学習活動の中でも今年度特に注目を浴びたのは、紫藤祭のステージ発表で実演した英語劇ではないでしょうか。担任として、準備の段階から見ていると「本当にこの調子で大丈夫なのか」と不安に思いましたが、当日は見事にやりとげ、多くの観客を動員しました。

卒業後も、外国語系の専門学校や大学の英文科などへ進み、高校で学んだことを将来に生かそうという志は、コースはなくなっても「国際高校」の後輩たちに受け継がれるものだと信じています。

3年5組 担任　川尻　卓矢

# 第三十六回 校内弁論大会 スピーチ・レシテーションコンテスト

国語科主催、平成二七年度「第三十九回弁論大会」が去る十一月二十八日（土曜日）に、本校体育館にて開催されました。今年度は一年生四名、二年生四名、三年生四名の計十二名がそれぞれの主張を競い合わせることで、各賞入賞を目指しました。

本校弁論大会は先に記した通り、今年度で三十九回目の開催となり、重要な伝統行事の一つとなっています。弁論文は、毎年の夏休みに国語科の課題として本校生徒全員に課せられるものです。その課題として提出された原稿を、各担任の先生にまず読んでいただき、各クラスの中から「これは」と思われるもの、あるいは「推薦に値するもの」を二から四作品程選んでいただきます。そしてそこで選んでいただいた四十から六十程の作品の中から、さらによいものを国語科で各学年から再度選考し、その選考された生徒を一同に集め、最終選考である原稿の読み方の確認、各生徒の出場意思の確認を行い、その後二ヶ月に及ぶ長く厳しい練習が始まります。今年度もこのような過程によって選考された十二人の生徒たちが、この弁論大会で各人の「思い」を日本語という言語に乗せ、表現を工夫し、弁論大会に臨みました。以下に発表者、各賞受賞者を挙げます。

一、一―七　菅野　栞　「誰かのために」
二、二―六　岩﨑　由奈　「発電方法の見直し」
三、二―七　鴨谷　伊吹　「社会の病『ストレス』」
四、三―七　笹井志緒里　「価値ある『発信』」
五、一―四　石上　有紀　「動物を飼うこと」
六、三―五　川田　瑠香　「七十年目の今日に」
七、二―六　角　雪乃　「水の安全性」
八、一―二　内田結里加　「思いやりや優しさ」
九、三―三　高橋　美利　「不安と希望―女性警察官を目指して―」
十、一―六　那須　彩佳　「言葉の想いと自分」
十一、二―一　小山　直希　「これでは何も守れない」
十二、三―六　神田彩日香　「否定を魔法に」

**各賞受賞者**

若　紫　賞…三―七　笹井志緒里　「価値ある『発信』」
夕　顔　賞…二―一　小山　直希　「これでは何も守れない」
後援会長賞…三―六　神田彩日香　「否定を魔法に」
国語科奨励賞…三―三　高橋　美利　「不安と希望―女性警察官を目指して―」

The hopes, desires and boundless optimism for the future were on full display at this year's 19th annual speech contest and 9th annual recitation contest. All were captivated by each student's command of the English language and the calm they each had on stage. The speeches touched on a variety of subjects akin to the hearts and minds of the student body at Yamamura Kokusai high school. If one listened carefully to the message behind each speech the future bodes well for our students.

The first prize went to Kanno Fuyuka (2-3) for her brilliant explanation of the OMOTENASHI spirit and helping conjure up enthusiasm for the 2020 Olympics in Japan. The second place prize went to Samukawa Koki (3-5) for his skillfully choreographed, action packed speech that focused on his passion to be an action film director. The third place prize went to Iwabuchi Naomi (1-2) for her speech about Philippine 'Fiesta'. Ms. Iwabuchi's booming voice, energetic smile and traditional attire made for great fun.

Kozai Serika (2-3) imparted her wisdom on how to smile in the face of adversity, cherish friendship and, most importantly enjoy the moment with a smile. Ogino Yui (2-7) tackled a difficult subject of love and defined it as well as anyone can. She told us that love is more than a dictionary definition, but breed of action, sincere action and sacrifice. Yonekura Rena (3-5) embarked on telling us all of the hero in her life, her father. A tribute to the love, affection and respect she has for her father.

This year's recitation contest was won by Baba Tamami (1-3). Her confident and skillful recitation charmed us all. Our runners up included Kono Yuke (1-1), Suzuki Yusuke (1-1), Matsuoka Miho (1-5), Takiyoshi Haruka (1-6) and Mizuno Kotone (1-7).

These students embodied the future with their enthusiasm, love and hope. Their efforts helped to continue the rich and ever growing tradition of English speech at Yamamura Kokusai high school.

# 語学研修 in ブリティッシュヒルズ

## ブリティッシュヒルズ語学研修を終えて

12月25日から２泊３日で、福島県にあるブリティッシュヒルズの語学研修に参加してきた。東北地方ではあるが、一歩施設に入るとそこは正しく英国。映画ハリーポッターに出てくるようなお洒落な雰囲気の中、話す言葉はすべて英語。３日間日本語を封印し、英語を駆使しながら様々な活動に参加してきた。

初日、オリエンテーションを済ますと“サバイバルイングリッシュ”のスタート。ネイティブの先生と一緒に、英語圏でのコミュニケーションのコツを掴む楽しいレッスンを受けた。参加する生徒が６人と例年に比べると少人数ではあったが、初日からどの生徒もとても積極的で自分のスキルアップに一生懸命な姿がそこにあった。今年は雪がないと少しがっかりしていたら２日目は大雪。あたり一面期待通りの銀世界。朝から気分上々でカリグラフィ、ダンス、更に英国式ビリヤードと言われるスヌーカーを楽しんだ。そして最終日。クリスマスをイメージしながらバターたっぷりのクッキー作り。家族への素敵なお土産の一つとなったようだ。

様々な活動を通して実践的な英語に触れた３日間。本当に短い期間ではあったが、どの生徒も英国に来たかのような気分でたっぷりと英語に浸り、充実した時間を過ごすことができた。ぜひ来年も多くの生徒がこの研修に参加することを期待している。

### …… プログラム ……

| Firday 25th December | Saturday 26th December | Sunday 27th December |
|---|---|---|
| バス | 朝ご飯 | 朝ご飯 |
| | | 部屋　チェックアウト |
| | 9:00～10:30　**カリグラフィー** | 9:00～10:30　**クッキング** |
| | 休憩 | break |
| | 11:00～12:30　**ダンス** | 11:00　終わり式　　証明書 |
| 13:00到着<br>パスポート、チェックイン、オリエンテーション | 昼食 | 昼食 |
| マナーハウス　ツアー | 14:00～15:30　買い物、ティー　ショップ | 12:30　出発 |
| 15:30　部屋 | 休憩 | |
| 16:00～17:30　**サバイバル　イングリッシュ** | 16:00～17:30　lesson:**スヌーカー** | |
| | wait in barracks until called | |
| 夕食 | dinner（table buffet）（dining hall） | |
| 自主研修　Ye shoppe－18:00<br>Tuck shop－19:00～20:00<br>Pool－21:30／Gym－22:00 | 19:00～20:00　ゲーム・スヌーカー | |

## 平成27年度 スキー・スノーボード教室

３月９日、今年度もスキー教室が実施されました。今年度より新たに設けたスノーボードの部門も手伝って、参加生徒は14人となりました。

当日の天候はあいにくの雨で、研修場所である群馬県「オグナほたかスキー場」へ向かう道中も雪に変わったりはせず、山道でも路肩に雪が見られなかったため、暖冬の影響を感じながらゲレンデのコンディションを心配する声が聞こえていました。

ゲレンデに到着すると、予想以上に少ない雪。そして雨。この日がまったくの初めてというスノーボード部門の生徒たちには特に厳しいものとなってしまったゲレンデ状況でした。

今回の参加者の内訳はスキー4名・スノーボード10名で、スノーボード未経験者はゲレンデのスノーボード教室に参加し、いちからプロの講師に技術を教わりました。転び方も知らないまま、学生同士でツアーなどに参加してゲレンデ初体験という場合も多い中、こういったサポートを行事で経験できるのは安全管理上の不安も軽くなって良いのではないでしょうか。

平日ということでゲレンデも空いており、山頂付近は雪が降っていて滑走面のコンディションも悪くなかったので生徒たちはみなリフトに乗ってからは楽しそうに滑走をしていました。スキーでの参加者は皆レベルが高く、スキー部門引率の伊藤良明先生と山頂からの滑走も難なくこなしており、学校とはまた違った雰囲気の友人との交流を楽しんでいるようでした。一方スノーボードでの参加者は、まだ転ばないのがやっとの生徒を滑れる生徒がサポートし、全員がまとまって山を下りていくという暖かな雰囲気のまま1日を終えました。

近年、このようなウィンタースポーツを学校行事として行っている学校は減りつつありますが、ウィンタースポーツ自体は人気を増す一方です。学生だけでの遠出につきまとう危険性を軽くするという意味でも、このような行事は大切なのではないでしょうか。

川尻　卓矢（スノーボード部門引率）

# 進路報告

～進路指導部より～

**【進路状況】**

平成二十七年度の合格件数は、二月二十三日現在、大学一四一、短期大学二八、専門学校七一、就職十三となっている。大学合格校としては、明治大学、法政大学、立教大学、成蹊大学、成城大学、津田塾大学、日本女子大学などの有名私立大学に合格者が出ている。短期大学では、合格者の約半数の一三名を、山村学園短期大学が占めている。専門学校については、看護・医療系や男子に人気の自動車関係などの学校への進学者が多く見られた。

**【AO入試】**

AO入試（アドミッションズ・オフィス入試）は、出願者の人物像を学校側の求める学生像（アドミッション・ポリシー）と照らし合わせて合否を決めていく入試方法で、本校でも毎年多くの生徒がこの形式の入試を受験している。それぞれの学校で違いはあるものの、ほとんどの場合「志望理由書」や「活動報告書」などに基づいた面談を重ねることによって、本人の人物や高校時代の活動を評価していく。入試の時期としての他の入試形式より早く、三年生の五月頃から始まる学校もあり、夏休みを前後して合否が決まってくる三年生の受験がスタートする入試形態である。

また、学力テストを伴わないことから、安易に考えて受験する者も見られるが、近年、成績不振者や遅刻欠席日数の多い者が不合格となるケースが見られる。今年度は、現在大学二九件、短大一八件、専門学校三四件がAOで合格しており、特に専門学校の合格件数の約半数が、AOでの受験である。

**【推薦入試】**

推薦入試にも様々な種類があるが、本校の生徒の多くが利用するのは、主に指定校推薦（ほとんどは校長推薦）、公募制推薦（こちらもほとんどは校長推薦）、自己推薦の三つである。

この中で、指定校、公募を問わず、校長推薦希望する生徒は、本校の学校推薦の基準である評定平均値三・〇以上、三年間の欠席日数二十日以内の条件を満たしていれば、毎年九月上旬に実施される校内選考会に希望を提出できる。指定校推薦の場合、多くは推薦人数に制限があり、希望が重なった場合は、どの生徒を推薦するか、協議の上決定することになる。学校によって求めてくる成績の基準や欠席日数は様々で、中には、評定平均値四・〇以上、欠席十日以内など厳しい条件を求めてくる学校もある。僅か〇・一、の評定、僅か一日の欠席が明暗を分けることも少なくない。

ちなみに今年度の本校の指定校件数は、大学二九六件、短大五三件、専門学校一八四件にのぼった。

推薦入試の合格者は、大学五四件、短大一五件、専門学校二三件であった。

**【センター試験】**

今年度センター試験は、六九名が志願票を提出した。国公立大を志望する者もいるが、多くは私大のセンター利用入試を受験することに使っている。二月二三日現在、大学一五件の合格が出ている。

**【一般入試】**

特進コースの生徒が中心であるが、普通コースの生徒も看護・医療系の分野などを中心に粘り強くチャレンジする生徒もいる。同じ大学で、複数学科に出願する場合の受験料に出願する場合の受験料の割引きや学部統一入試などによって複数学科の併願が可能になるなど受験機会も増えており、延べ一〇校以上の受験をする者も珍しくない。

**【学校全体の取り組み】**

本年度は、放課後セミナー二三講座を開講、夏期校内補習四〇講座に加え、冬期にも校内補習を実施した。

職業理解と体験を目的としたキャリアセミナーは年六回（幼教・保育、公務員、看護、栄養・調理、美容、リハビリ）実施した。

また、三年生は七月に坂戸グランドホテルを会場に進路相談会を実施。三月には、一、二年生を対象にウェスタ川越で、進路相談会を実施する予定。

**【就職】**

厚生労働省埼玉労働局（平成二十七年十二月末現在）によると、県内の高校卒業予定者で就職を希望している者の内定率は、男女共に九〇％（昨年同期比で男子一・二％増、女子五・二％増）と、好調で、内定率が九〇％を超えたのは、平成九年度以来十八年ぶり。本校でも就職を希望していた十三名（家業従事含む）全員が内定を得ている。

# 芸術鑑賞会

本年度の芸術鑑賞会は、十二月十七日（木）に行われました。全校生徒が浜松町にある四季劇場〔春〕に集合し、「ライオンキング」を鑑賞しました。

鑑賞演目の「ライオンキング」は、上演階数一〇〇〇回を達成する劇団四季作品の中でも人気の高いものです。生徒の多くが四季作品を初めて鑑賞するということもあり、事前指導の段階から非常に楽しみにしている様子が見受けられていました。慣れない交通機関を利用したため、集合に戸惑ってしまった生徒も数名おりましたが、十三時三十分の開演は静かに着席した状態で迎えることができました。

幕が上がると、黄金色に輝く朝日をバックに2頭のキリンが悠然と姿を現し、一気にその世界に引き込まれました。様々な動物達が客席を埋めつくし、生徒達は大興奮でした。「ハクナ・マタタ（くよくよするな）」の歌にのせてあっという間の二時間半でした。生徒達にとって大きな感動を得た鑑賞体験でした。

# カウンセリングルーム

「将来何をしたいかわからない。」「自分の将来はいったいどうなるのだろう。」

このような『不安』を感じている人はいませんか？

このような時には『不安』と『心配』は違うものであることを知っておくと、対処がしやすくなります。

『不安』は漠然としていて、対象がわからないもの、一方『心配』というのはきちんと対象があり、具体的な対策を考えることができます。ですから、まずは『不安』を『心配』に変えることが出来るかどうかを考えてみます。将来のどんなことに対して『不安』なのか、一つずつ確認することにより『不安』を『心配』にしていく。誰かと話すことでも良いし、漠然と心の中にある思いを紙に書き出してみても自分の『不安』を客観視することができます。

『不安』を対処可能な『心配』に変えることができれば、解決すべきポイント、そして具体的な行動に近づけます。行動が具体化するとあんなに悩んでいた大きな不安が、それほどたいしたことではないと思えるようです。

将来の不安を抱えている場合も、もしかしたら「本当はやってみたいことがあるけど実はやるべきことがたくさんあって、それが全部出来るかどうかが心配」ということに気づけるかもしれません。

しかし、簡単に『不安』を『心配』に変えられないこともあります。「決まっていないと不安」こんな思いが心の中を支配しているようです。そんなときには「決まっていないから、将来を変えられない希望がある。」「決めてないからこそ、自分の好きなことがいろいろ出来る。」こんなふうに不安を別の文章に書き換えてみませんか？

自分で決めることは今より少しだけ勇気が必要です。やりたいことがたくさんあって一つに決められない人は決められるまで全部頑張ってみるのも良いでしょう。

カウンセリングでは『不安』を対処可能な『心配』へ、そしてそれを『希望』につなげるサポートをしています。

あなたは今、どんな『不安』がありますか？

# 事務室だより

## 「花咲徳栄高校野球部を強くした本校・就学支援金等について」

山﨑　昭男

今春の選抜高校野球出場校が、1月29日決定した。2014年夏、開幕試合で、本校が2：1で破った花咲徳栄高校が連続出場することとなった。

徳栄高校は、本校に敗戦のあと県内ではほぼ負けなしで、昨夏の甲子園ベスト8をはじめ快進撃をつづけている。

花咲徳栄高の大活躍をみるにつけ、「花咲を強くしたのは本校ではないか、本校の甲子園出場も近い。」と感じている昨今である。

本校野球部の全員一丸となる奮起を期待したい。

平井　敦嗣

平成27年度の就学支援金及び授業料軽減について、平成27年第1期・2期に申請頂いた方については、2月25日に授業料口座への振込処理をさせて頂きましたので確認をお願い致します。

特にお手元の資料を確認して、「もしかして申請を忘れたかもしれない」という方がいらっしゃいましたら、お気軽に事務室までご連絡下さい、年度内(3月末)までしたら追加申請が可能です。

新2年生・新3年生の方々は、平成28年度になりましたら引き続きこちらの「就学支援金・授業料軽減」について、書類を提出頂くことになります。例年通りですと第1回目の申請関係として6～7月に書類をお渡しできると思いますので、その時は必ずご確認下さい。